

新幹線プレス

2015年8月26日 No.245

発行者 成田隆浩

編集者 教宣部

JR東海労新幹線地本

業務の変更説明で時間超過!!

東京仕業検査車両所では、8月3日からの仕業検査の変更点についての説明がありました。しかし、説明といっても退勤点呼間際の20分程度のもので具体的なものが全く示されないお粗末な「説明会」でした。

ある説明会の日、社員からの質問に苦悶し、点呼時間を5分オーバーするということがありました。そして、その日の担当助役は、この5分の勤務について「わからないから確認する」としました。

超勤は認めない!! 苦情申告は受け付けない!!

当事者が次の勤務に就いた日に助役から返ってきた言葉は、「点呼後の時間は超勤にならない」とのことでした。

業務内容を説明しているのに、「勤務」ではなく「自分の時間」と整理するという会社の姿勢に驚いた当事者は苦情申告しましたが、2週間待たされた挙句、会社側窓口から「点呼終了は伝えた、場所はその時の状況による」と、現場管理者の一方的主張のみで「苦情処理会議は開催しない」というものでした。

そもそも十分な説明時間を設けないのが問題だ!!

そもそも、作業の変更という大切な説明に十分な時間を用意しないのが問題です。なぜ変更するのもハッキリせず、説明した変更点さえ施行日になってまた変更する

など、実際に現場で作業する私たちは何をどうすればいいのか混乱の中での作業を強いられています。

会社は、こうした作業変更についてこそ、労働者とディスカッションを深めて働きやすい職場にする義務があります。

「労働者は会社の決めた通りに動けばいいのだ」という会社の姿勢では風通しの良い職場にはなりません。

8月2日の勤務について

私は、8月2日の8:05より仕業検査の変更点について児玉助役と山崎助役より説明を受けた。その際、勤務終了時間の8:30までに終了せずに8:35までとなった。このとき、児玉助役にこの5分間の勤務整理はどうなるのか尋ねたら、児玉助役は「わからないから確認しておきます」と答えた。

8月6日の8:15頃から吉田助役と渡辺助役から8月2日の勤務について説明を受けたが、「点呼終了後は超過勤務になりません」とのことだった。

しかし、8月2日の8:30に終了点呼は成立していない。山崎助役が「もうすぐ点呼の時間となります」と言ったが、私から「点呼は良いが、説明はどうなる」と言い、質問をしたら山崎助役や児玉助役は質問に答えていた。

そもそも、「説明」は作業の変更点という大切な説明に十分な時間をかけないばかりか、説明する助役も内容を理解していないお粗末なものだった。こうした事態を繰り返さない為にも、業務の説明に要した時間は「勤務」とするべきである。

業務の説明を受けているにもかかわらず「自分の時間」とする会社の勤務整理には納得がいかない。

従って、苦情申告する。

【会社に提出した苦情申告】